



かながわの交通

2011
2


今年の交通安全年間スローガン(内閣総理大臣賞、最優秀作) 一歩行者・自転車利用者に対するもの一

行けるかな 渡れそうでも 待つ勇気



逗子市交通安全ポスターコンクール入選作(逗子市長賞)
逗子市立沼間小5年(当時) 渡辺瑠那さんの作品

ハンドルキーパー運動推進中!



飲酒運転根絶!!

今日のハンドルキーパーさんは?

◎県内の交通事故発生概況(1月末)

◎県人口・運転免許人口

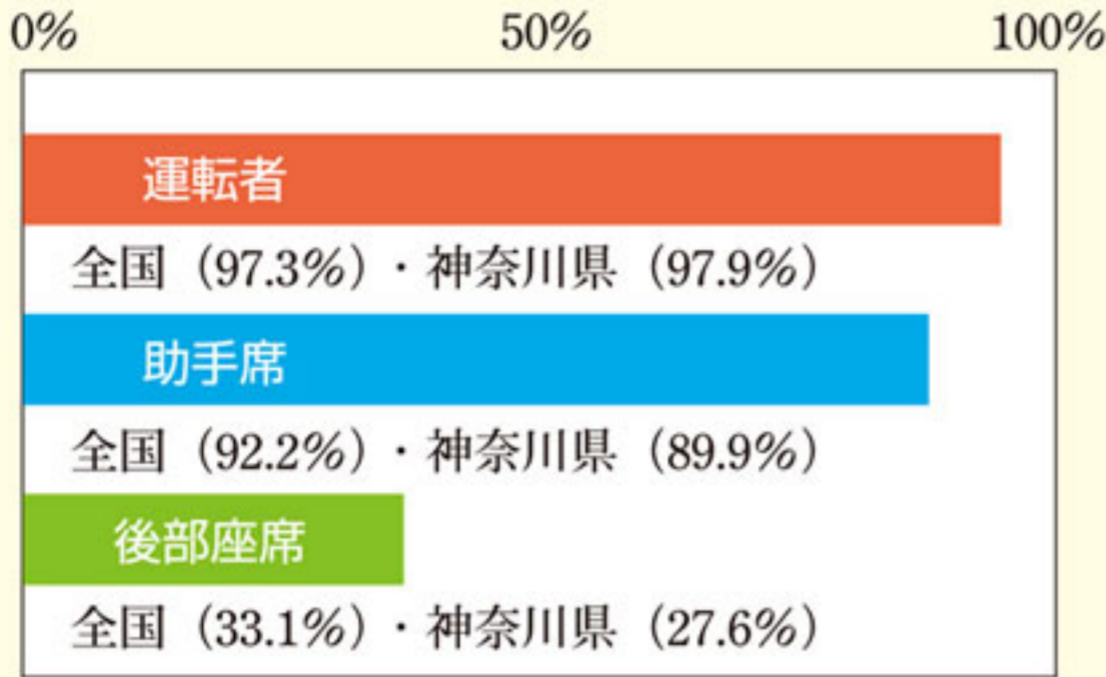
年別	区分	発生件数	死者数	傷者数		総数	男	女
平成23年		3,265	15	3,838	県人口	9,029,996	4,543,159	4,486,837
平成22年		3,315	20	3,968	免許人口	5,496,034	3,216,834	2,279,200
増減数		-50	-5	-130	割合	1.6人に1人	1.4人に1人	2.0人に1人
増減率		-1.5	-25.0	-3.3				

(県人口は平成22年9月1日、免許人口は12月末)

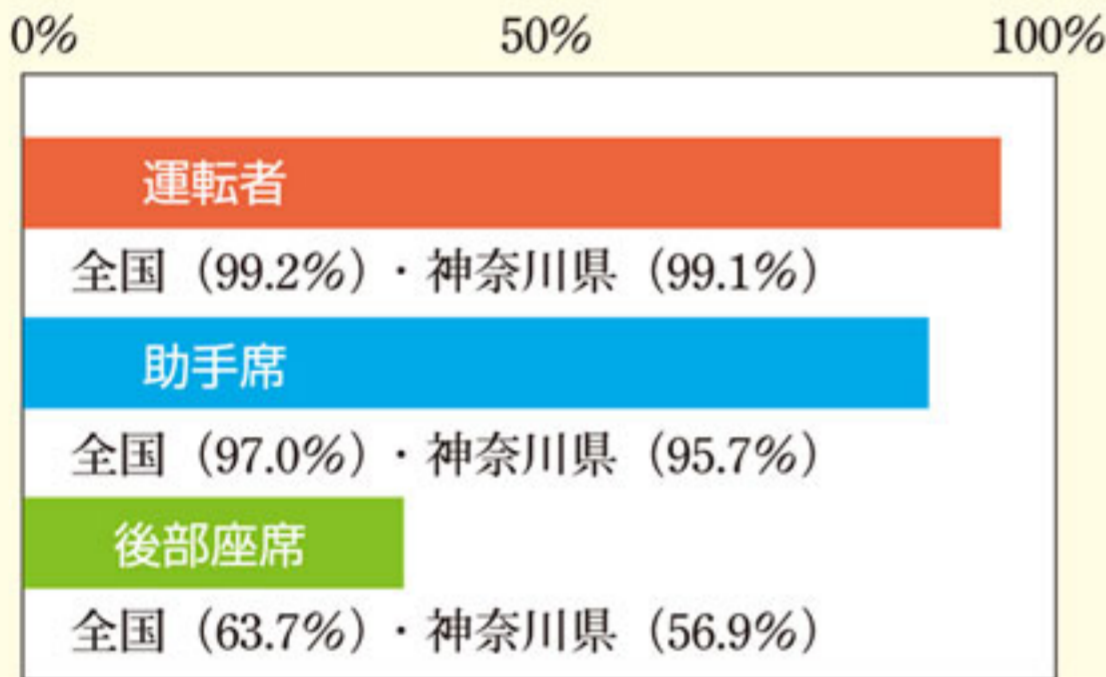
シートベルトの着用状況調査結果

～本県は、一般道、高速道とも後部座席同乗者の着用率が低い～

●一般道における着用状況調査結果



●高速道路等における着用状況調査結果



〔調査結果〕

警察庁と(社)日本自動車連盟(JAF)は2010年10月1日(金)から10日までの間、合同でシートベルトの着用状況について全国調査を実施した。その結果、運転者の着用率は、一般道では97.3%(神奈川97.9%)、高速道路等では99.2%(神奈川99.1%)であった。

助手席同乗者は、一般道では92.2%(神奈川89.9%)、高速道路等では97.0%(神奈川95.7%)であった。後部座席同乗者については、一般道では33.1%(神奈川27.6%)、高速道路等では63.7%(神奈川56.9%)にとどまった。

〔シートベルト着用有無別交通事故統計〕

シートベルト非着用の場合の致死率は、運転者については着用の場合の致死率の約47倍、助手席同乗者については同約13倍、後部座席同乗者については約4倍であった。

〔今後の対策〕

- シートベルトの着用効果を理解させるため、衝突実験等の映像、シートベルトエアバッグ衝撃体感装置等を活用した安全教育、広報啓発活動を強力に推進する。
- 後部座席を利用する者が多いタクシー乗り場、行楽地等におけるリーフレットの配布等、集中的な広報啓発活動を実施する。

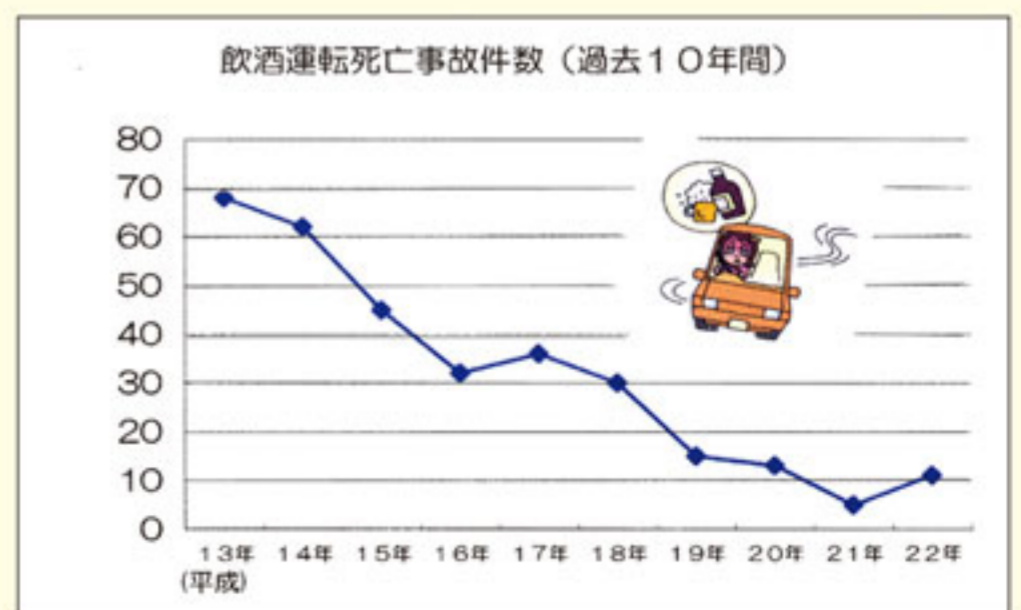
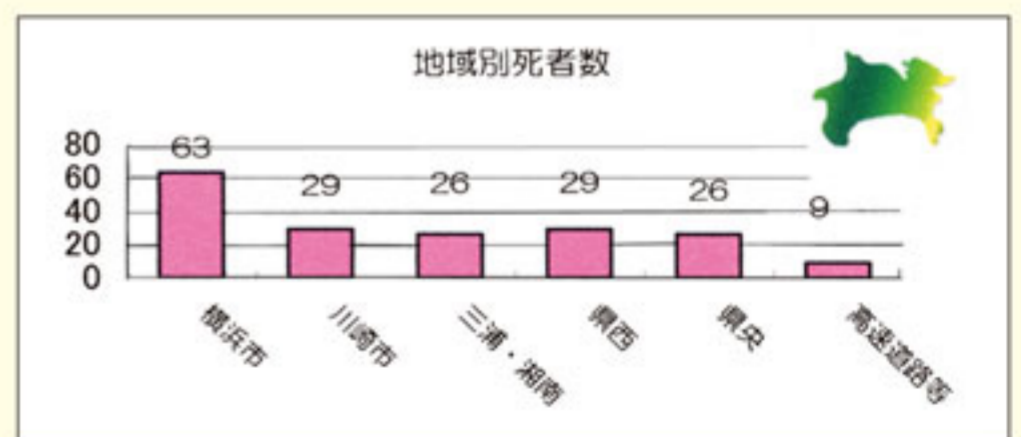
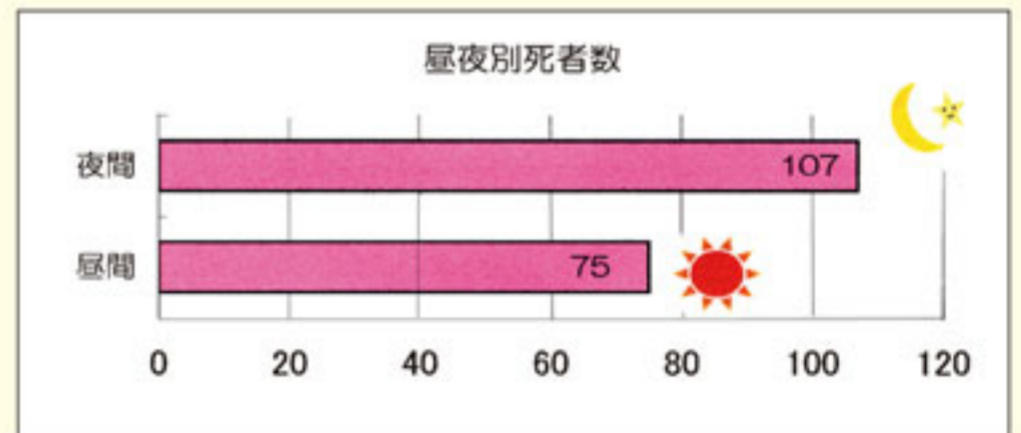
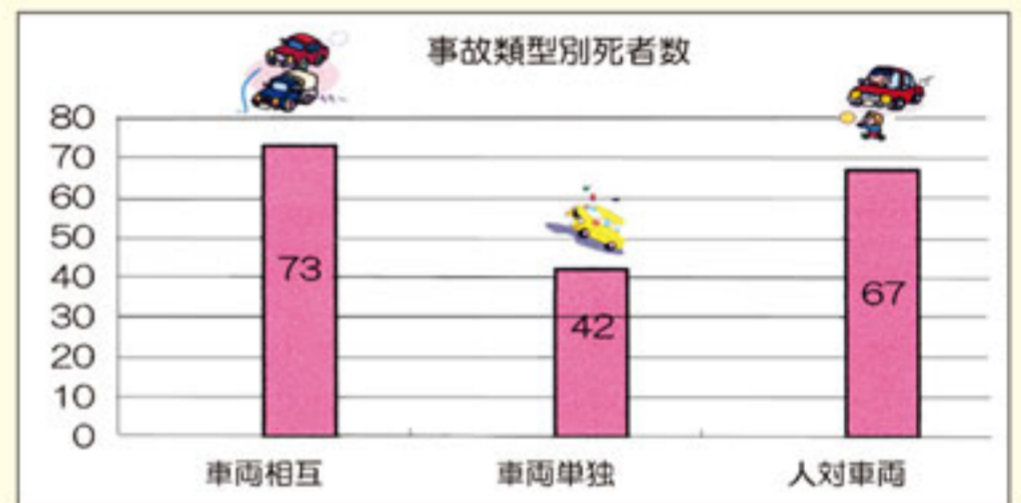
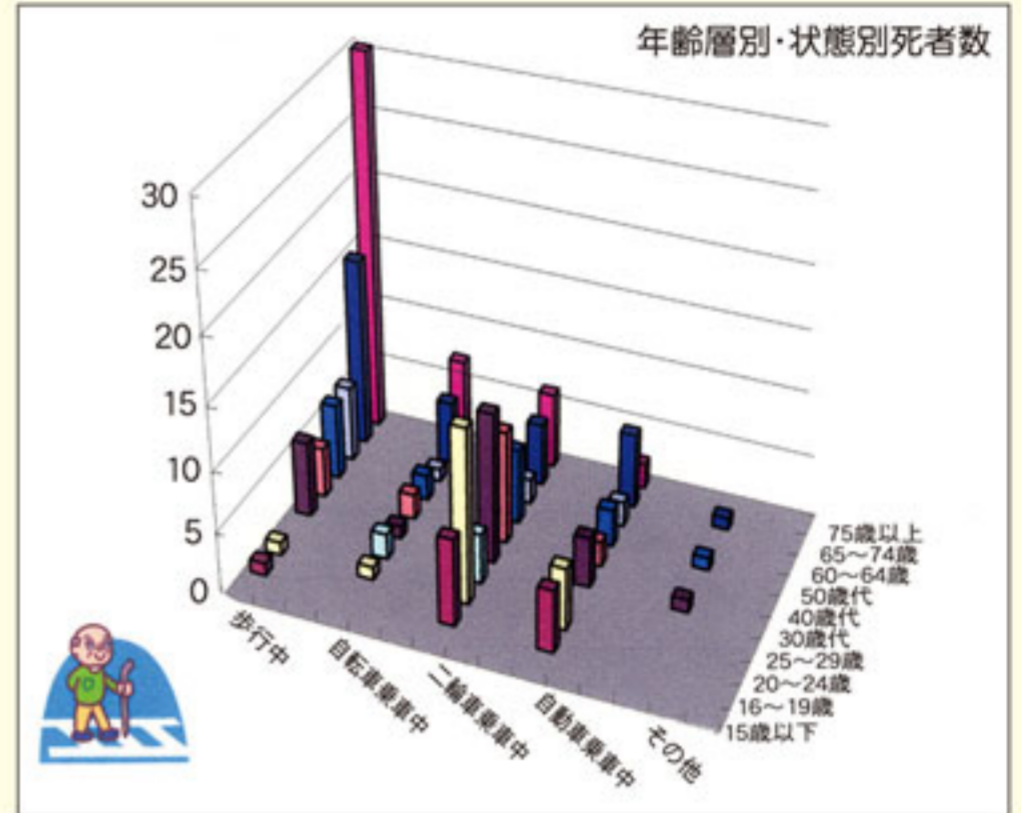
※警察庁・JAF資料

交通事故発生状況と交通死亡事故の特徴(平成22年中)

●交通事故発生状況

- 発生件数 41,815件 (前年比 -1,202件 -2.8%)
- 死者数 182人 (前年比 +6人 +3.4%)
- 負傷者数 49,644人 (前年比 -1,412人 -2.8%)

●交通死亡事故の特徴



第51回交通安全国民運動中央大会開催

1月17日、18日の両日、第51回交通安全国民運動中央大会が開催され、18日に日比谷公会堂で開かれた本会議で、優良交通安全協会として、戸塚交通安全協会・大和綾瀬交通安全協会が受賞しましたので、それぞれの事務長からのメッセージをご紹介します。

大和綾瀬交通安全協会



〔沿革〕

大和綾瀬交通安全協会は、昭和23年5月に発足し、当初は、大和警察署内に事務所をおいていましたが、昭和63年12月に同署敷地内に新築して、現在に至っております。協会の名称も、平成4年5月に「大和地区交通安全協会」から現在の名称に変更となっています。当協会のエリアは、大和市と綾瀬市の2市で、人口規模も30万人を超えています。地域の特徴としては、大和と綾瀬にかけて米海軍と海上自衛隊の航空基地があります。鉄道は、相模鉄道と、小田急江ノ島線が走っているほか、田園都市線が乗り入れ、道路網も、国道246号、467号、主要県道等が縦横に走り、物流等の基幹道路として多くの車が利用しています。こうした交通環境を基盤として商業施設や住宅地が形成されていることから、交通安全活動は、住宅地、会社・商業施設等の地域特性に見合った対策を警察や関係機関・団体と緊密な連携を図りながら、実効のある活動を心がけています。

〔組織と活動〕

協会の構成は、古郡会長以下、総勢109名の交通ボランティアの皆さんと事務局職員3名が、年間を通じて各季の交通安全運動で警察や関係機関・団体と交通安全活動を展開しています。

特に当協会では、重大交通事故に直結する飲酒運転の根絶を重点としてとらえ、ハンドルキーパー運動等の推進を図るため、大和市内の大型店舗内の飲食店9店舗を「ハンドルキーパー運動モデル店」に委嘱して、実践的な運動を展開しているほか、市内の行事等では、趣向を凝らしたキャンペーン、イベント等を通じてハンドルキーパー運動を推進しています。

この度は、こうした一連の活動が評価され、「第51回交通安全国民運動中央大会」で受賞の栄に浴し、大変名誉なことと思っています。今後とも、警察をはじめ、関係機関・団体のご協力をいただきながら、交通ボランティア団体としての役割を果たしてまいりたいと考えています。

(大和綾瀬交通安全協会:小貫 記)

戸塚交通安全協会



〔沿革〕

戸塚交通安全協会は、昭和23年4月に発足し、当初、事務所は警察署内にありましたが、昭和62年12月に戸塚警察署敷地内に新築して現在に至っています。戸塚は、江戸期には東海道の宿場町として栄え、近年に入っては、東海道線戸塚駅を中心に発展しました。日立製作所など、多くの工場が進出して、高度成長期以降は丘陵地の造成が進み、東京、横浜のベッドタウンとなっており、横浜市副都心として指定されています。区内には、交通情報での渋滞交差点として名を馳せている「原宿交差点」がありますが、上下線とも昨年12月に立体化が完成し、長い渋滞の歴史にピリオドを打ちました。また、軌道に乗り始めた戸塚駅西口の再開発事業も第二期目に入り、ますます発展する街の「安全、安心」を守るため、警察や関係機関・団体との緊密な連携を図りながら、実効ある交通安全活動の推進を心がけています。

〔組織と活動〕

協会の構成は、齋藤会長以下、総勢190名の交通ボランティアの皆さんと事務局4名の職員(パートを含む)が、年間を通じて各季の交通安全運動等で警察や関係機関・団体と交通安全活動を展開しています。当協会では特に、戸塚駅西口周辺の違法駐車・駐輪問題について関係機関と連携しながら取り組んでいるほか、区内で多発傾向にある高齢者の交通事故を防止するため、区内の行事等でキャンペーン等を通じて市民に呼びかけを行っています。

この度は、こうした一連の活動が評価され、「第51回交通安全国民運動中央大会」で受賞の栄に浴し、誠に恐縮しております。

今後とも関係機関・団体と連携して「横浜市の第二副都心、戸塚」の交通安全の確保を目指してまいります。

(戸塚交通安全協会:川辺 記)

タイムマシーンをおあげたい ⑧

警察官から見た交通死亡事故の回顧録

雪のいたずら

Aちゃんは、「明日は、大好きなおばあちゃんに逢える。」と、夜の明かりに白く浮かんだ雪を窓から見て、そわそわワクワクしていました。

翌朝は、スッキリと晴れ渡り、真つ青な空の下、三歳のAちゃんは、五歳のお兄ちゃん、ベビーカーに乗った二歳の弟と一緒に、お母さんに連れられ、駅で待つおばあちゃんを迎えに出かけました。

駅に着く二つ手前の横断歩道で青信号を待つ間、Aちゃん、道路脇に残った雪で遊んでいました。信号が変わり、ベビーカーを押したお母さんとお兄ちゃんが横断歩道を渡り終え振り返ると、Aちゃんは、雪遊びに夢中になって、お母さんたちが先に歩いていったことに気づいていない様子でした。

お母さんは、「Aちゃん、こっちだよ、こっちにおいで。」と、雪遊びに夢中になっているA

ちゃんを呼びました。

すると、その声に気付いたAちゃんは、我に返るや横断歩道に飛び出してしまったのです。不運なことに、飛び出したAちゃんのところには交差点を右折してきた鉄の塊が…。

お母さんと五歳のお兄ちゃん、二歳の弟の目の前で小さな命が一瞬にして奪われてしまいました。

病院に駆けつけたおばあちゃん、お兄ちゃん、お母さんは、現実を受け入れられず、言葉もありません。

あれから月日が経ちましたが、私は、雪模様、空を見上げて「Aちゃんはきつと小さな雪だるまを作っておばあちゃんに見せたかったのかな…」と、この事故と家族の顔を思い出します。

第51回交通安全全国国民運動中央大会分科会における意見発表要旨

若年層・高齢者に対する二輪車の安全運転教育と効果的な実施方法について



神奈川県二輪車安全運転特別指導員
(財)日本燃焼機器検査協会
特命事項アシスタントマネージャー
橋本 紳二

1 はじめに

二輪車安全運転指導員は、二輪車の安全運転技術を高めてもらうことを目的に、自動車運転免許試験場や自動車教習所などを使用し、急制動やスラロームなどの実技練習を、受講生自身で二輪車を使用して体験してもらう講習会において、運転技術や交通マナーの向上を図るための指導を行っています。

このような中において、若年層や高齢者に対しては、以下の点に留意して指導することを提案します。

2 若年層に対して

若年層は、身体の成長に対して、安全運転の経験や知識が乏しい傾向があるため、スリリングな走行を楽しんだり、ゲーム感覚のような走行を行う者がいます。

交通ルールは、運転免許を取得するためだけに学び、実際に道路を走行するときには、速度規制などの交通法規を意識せずに、自分の技量の上限で走行



する者もいるため、飛び出しなどの予期せぬ事態に遭遇すると、これに対応できずに交通事故を起こす確率が高くなる可能性があります。

そこで、若年層に対しては、まず交通ルールを再認識してもらい、これを守ることが交通事故の発生率を下げることにつながることを理解してもらう指導を行うことが有効的と考えます。また、「だろーう運転」から「かもしれない運転」に変えてもらう手段として、交通事故の再現ビデオをみてももらったり、業務用車両や交通事故が多発する交差点に設置された録画装置による実際の交通事故の画像を見てももらうなど、交通事例の多くを伝える指導方法が効果的と考えます。

3 高齢者に対して

高齢者は、気づかぬうちに低下している自分の体力(主に視力・反射神経など)を目の当たりにしても認めない傾向が見ら

れ、さらにこれまでの運転実績が過信となり、交通事故は起きないものだと思いがちな意識を抱く虞れがあります。

高齢者に対しては、これまでの無事故の実績に過信することなく、今後も安全運転に努めてもらうと共に、現在自分がどのような体力状態にあるかを自覚、認識してもらい、今後、さらに体力が低下して行くことによつて、どのような危険性が発生するかなどについても指導して行くべきと考えます。

4 まとめ

二輪車の安全運転指導は、乗用車の指導と異なり、隣に乗りさせてじっくり指導することができないため「やって見せ、言ってみせて、させて見せ、誉めてやらねば…」の名言に従って指導し、受講生自らにどうすれば安全運転ができるかを気づかせることが必要であり、また、このことを定期的に再認識していただくことが重要と考えます。

県交通安全
対策協議会総会開催



挨拶する松沢会長

1月31日(月)、横浜市中区のワークピア横浜で県交通安全対策協議会総会が開催されました。総会には松沢会長(県知事)の挨拶のあと、3年間以上交通事故死者をゼロに抑止した開成町、逗子市交通安全対策協議会、年間の交通事故死者をゼロに抑止した横浜市南区交通安全対策協議会他7協議会、交通死亡事故抑止をはじめ、地域の交通安全活動に多大な功労のあった横浜市青葉区交通安全対策協議会他9市区町協議会と、県内の交通安全活動に多大な功労のあった「ちがさき自転車プラン・レインウェアプロジェクト」他2団体に会長から感謝状が贈呈されました。続い

て交通安全部会、交通施設部会、踏切対策部会、暴走族部会及び高齢者対策特別部会から、それぞれ平成22年度事業報告と平成23年度事業計画案に対する審議が行われ、いずれも原案どおり了承されました。当協会では、この総会で了承された平成23年度交通安全対策協議会事業計画により事業を展開していきます。

県協会賀詞交歓会開催



挨拶する岡崎会長

1月20日(木)午後、ヨコハマロイヤルホールで県交通安全協会の賀詞交歓会が開催されました。当日は、岡崎会長をはじめ、各副会長、理事、評議員、監事の役員、賛助会員のほか、来賓として松沢県知事、渡辺警察本部長、佐藤交通部長、関係機関・団体の代表者など159名の方々に

ご出席をいただきました。

初めに、今年の交通安全全国民運動中央大会で交通安全栄誉章を受章された方々への記念品贈呈が行われました。続いて岡崎会長の挨拶、松沢県知事、渡辺警察本部長からご祝辞をいただいた後、懇談に移り新年のスタートが切られました。

2008二科展入選
作品を県協会へ寄贈



県協会講習部の田中美津子さんから県協会へ、絵画(第93回二科展入選作品・80号)が寄贈されました。この絵画は「若い女性の物憂げな様子」をご自身が描いたもので、県協会会館4階ロビーに掲出し、来訪者に鑑賞していただいております。

田中さんは横浜市旭区在住で、本格的な指導を受けたのは平成14年。平成19年に二科展初入選、22年には二科展・上野の森美術奨励賞を受賞。太陽美術協会会員、二科展同人。

更新時講習「受付」のおすすめ時間帯等について

1 運転免許試験場における更新時講習の受付時間

受付時間			
優良	一般	違反	初回
8:30~11:00	8:30~11:00	8:30~11:00	9:00~9:50
13:00~16:00	13:00~15:00	13:00~14:30	13:00~13:50
日曜日・月~金曜日(休日は除く)			

2 試験場において、「更新時講習の受付」が比較的すいていてスムーズにできるおすすめの日、時間帯等(昨年1年間の状況分析、統計の結果)

- 年間を通して受付が混雑する時期
 - 4・5月のゴールデンウィークの時期
 - 8月のお盆時期
 - 年末年始、特に年始時期、中でも日曜日は大勢の方が来場しますのでご注意ください。
- 年間を通して日曜日は常に混雑しておりますが、特に午前中が混雑し、午後は比較的少ない状況です。
- 平日の日曜日は、比較的火曜日と木曜日が少ない状況です。
- 時間帯別で見ると、午前中が混雑し、午後は比較的少ない状況です。午前中でも、混雑は特に10時頃までに集中しておりますが、それを過ぎるとそれほどでもありません。

高齢運転者標識の新しいデザインが決まりました!

~平成23年2月1日(火)からスタート~

- マグネットタイプ
車体が鉄素材だけに使用できます。
- マグネット+ゲルタイプ(全車種対応型)
近年ハイブリッド車等車体がアルミ・ポリカーボ等非鉄素材を使用した車両が増えており、マグネットが付かない車種に対応した商品です。
- ご注文は、皆様のお近くの地区交通安全協会にお願いいたします。
- 問い合わせ先:(財)神奈川県交通安全協会
電話 045-478-0166



新デザイン



旧デザイン
従来の高齢運転者標識も
当分の間使用できます



ハンドルキーパー運動の紹介

その164 栄交通安全協会

栄交通安全協会（鈴木一美会長）では、JR根岸線「本郷台駅」周辺で、乗降客などに「大根」や「ハンドルキーパーチラシ」を配布しながら、「飲酒運転大根絶」を呼びかけました。



その163 旭交通安全協会

旭交通安全協会（飯田百二会長）では、相模鉄道線二俣川駅周辺の飲食店を訪問して「ハンドルキーパーミニのぼり旗」などを配布しながら飲酒運転根絶を呼びかけました。



その166 相模原交通安全協会

相模原交通安全協会（井上政市会長）では、国道16号の相模原警察署付近交差点で、通行中のドライバーに「ハンドルキーパー運動啓発グッズ」を配布しながら、運動の実践を呼びかけました。



その165 宮前交通安全協会

宮前交通安全協会（村野博会長）では、ハンドルキーパーロゴマーク入り割り箸（一袋100本入り）を6,000個作製し、神木本町交差点周辺の飲食店に配布しながら、ハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



平成22年「二輪車特別指導員審査会」2名合格



高川 佳乃
(たかがわよしの)



田中 卓
(たなかたかし)

合格者は次のとおりです。
(敬称略)

平成22年10月26日、自動車安全運転センター安全運転研修所で(財)全日本交通安全協会の二輪車安全運転推進委員会主催、平成22年「二輪車特別指導員審査会」が行われました。全国から多数応募の中、神奈川県からは2名の二輪車指導員が受審し、学科試験、実技試験及び面接試験の難関を突破し、見事2名とも合格しました。

今後の活躍を期待します



神奈川交通安全協会
交通指導員連絡部 部長
大西正男さん

おおにし まさお

今回は、交通ボランティア活動に対する「滅私奉公」という形容が正にピッタリな方・大西正男さんを紹介いたします。

大西さんは、現在、当協会理事としての要職にある傍ら、地域交通安全活動推進委員、交通指導員連絡部部長及び神奈川はまっ子隊に所属して交通安全活動の中核として活躍しております。昨年還暦を迎えましたが、ボランティア活動に対する情熱は年齢を超越しており、エネルギーが豊富でリーダーとして日々の交通安全活動に邁進しています。

特に、「衝突」「巻き込み」「死角実験」などの危険体験型交通安全教室を通じて児童に対する「交通安全意識の醸成」と「交通マナー」を身につけさせることを目的として、平成18年6月に発足した神奈川はまっ子隊の活動では、現在11人の隊員がそれ

ぞれの役割を理解し、相互の意思の疎通を図り、区内全小学校で効果的推進を図っております。この中において、保育園園長、家庭教師、塾の講師の経歴を持つ大西さんは、卓越した話術、ポイントをつかんだ子どもとの触れ合い手法、加えて天真爛漫な性格で人を引きつけるなど、今や、はまっ子交通安全教室の顔として、なくてはならない人材です。

その影響力は、児童、PTA、先生などから感謝の手紙が多数寄せられることが物語っています。時には、はまっ子隊の絆を深めるための懇親会を開催していますが、世話好きとはよく言われたもので、必ず幹事を引き受け、その場の雰囲気を上手に盛り上げていく才能を持っており、カラオケでの美川憲一の物まねは、誰が聞いても笑い転げるほど似ています。当協会・はま

っ子隊では、児童の交通安全教室のみならず、高齢者や親子三世代の交通安全教室も対応事業としていますが大西さんは全てに参加して精力的に指導に当たっています。平素から「区内から悲惨な交通事故を少しでも減らしたい。」また、「地域の実態に即した広範囲のボランティア活動も行っていきたい。」と抱負を語っており、そうした思いが大西さんの心の支えとなっており、その思いが健康に留意され、ますますのご活躍を願っています。（取材協力・神奈川交通安全協会）

インフォメーション

- ・交通指導員連絡部代表者会議
3月4日(金)、県協会会館
- ・優良職員表彰式・常任理事会
3月9日(水) 県協会会館
- ・臨時地区会長会議、理事会・評議員会
3月16日(水) 県協会会館

こんにちは
旭交通安全協会です

行政区の再編成に伴い旭区が誕生、旭警察署の新設に伴い保土ヶ谷交通安全協会より独立し、昭和47年4月に旭交通安全協会は開設され、来年は40周年を迎えます。区内には国道16号、中原街道、厚木街道、東名高速道路横浜町田ICに通じる「保土ヶ谷バイパス」等の幹線道路が縦横に走っており、近年の交通量の増加とともに、交通事故もやや増加傾向にあります。

当協会では、「1件でも交通事故の減少を」との思いから、結果がすぐに表れる事柄ではありませんが、小学生を対象とした、はまっ子交通安全教室、親子等を対象とした親子で学ぶ交通安全教室、県立旭高校自転車教室、連合町内会を対象とした、

「地域で学べる自転車安全教室」等を開催して交通安全活動を推進しています。当初、年間5回程度でスタートしたこうした安全教室も年を追うごとに回数が増え、昨年一年間の実施回数は27回を数えるまでになっています。特に、自転車交通安全教室では「自転車も乗れば車の仲間入り」また、高齢者等の交通安全教室では、「交通ルールを守って事故防止」を基本に、自転車安全5則や正しい道路横断方法などを学んでもらっています。

こうした、交通安全教室の開催も、交通指導員部の積極的なボランティア活動によるところが大きく、私ども事務局といたしましても、警察や関係機関・団体等と連携をとりながら参加し、交通安全広報・啓発活動を推進しています。しかしながら、協会のエリアには運転免許



試験場があるため、こうしたボランティア活動を支えていただく会員の皆様方の確保に苦慮しているところであり、工夫を重ねた業務運営を行っています。

今後とも、人との出会いの不思議さ、かかわり合う事の大切さ、触れあうことの楽しさを実感しながら、明るく優しさのある職場づくりを通じて交通安全に取り組んで参りたいと考えております。
(醍醐 記)

地区交通安全協会の活動紹介

～年末の交通事故防止運動～



田 浦
企業など訪問して、「交通事故大根絶」と表示した「大根」を配りながら年末の交通事故防止を呼びかけました。



大 船
JR大船駅前交通安全キャンペーンを実施し、乗降客等にチラシなどを配布しながら年末の交通事故防止を呼びかけました。



秦 野
秦野市健康福祉センターで青少年意見発表会を開催し、交通事故防止等に関する意識付けを図るとともに、年末の交通事故防止を呼びかけました。



津 久 井
市内幼稚園で、園児が書いた交通安全の願い事を「交通安全クリスマスツリー」に飾り、年末の交通事故防止を呼びかけました。

鶴 見
鶴見区役所で出陣式を行った後、区内4箇所交通安全キャンペーンを実施し、通行人等に啓発物などを配布しながら年末の交通事故防止を呼びかけました。



保土ヶ谷
JR保土ヶ谷駅前交通安全キャンペーンを実施し、乗降客等にチラシなどを配布しながら年末の交通事故防止を呼びかけました。



緑
JR長津田駅前交通安全キャンペーンを実施し、サンタクロースに扮した指導員が通行人等に啓発物を配布しながら年末の交通事故防止を呼びかけました。



瀬 谷
相鉄「三ツ境駅」前で交通安全キャンペーンを実施し、乗降客等に啓発物を配布しながら年末の交通事故防止を呼びかけました。



あなたの会費が交通安全活動に役立っています

編集後記

箱根往復大学駅伝が始まった平成二三年も松がとれ、新年会、大相撲初場所等、行事が目白押しのもも過ぎ、早二月に入った。一月は往ぬる、二月は逃げる、三月は去ると、言われていますが、この時期の時間の早さは真実的を射ている感じがします。

さて、昨年の県内における交通事故発生状況や事故の特徴も明らかになりました。県協会も、公益法人としてより高い新年度の交通安全活動等の指針づくりにはいりましたが、各地区協会にあつてもそれぞれ管内の交通事故分析に対応した各種施策に考えを巡らせていることと思えます。新年度こそは更なる交通事故減少に邁進したいと思っています。

ところで、最近、気になる交通事故が目につきます。それは、二輪車が絡んだ交通事故が多くなっていること、とりわけ高齢者の二輪運転中の交通事故です。

二輪車は、その構造上やや前傾姿勢で運転することになりますが、冬季には更に前傾姿勢が深くなります。また、運転者は、路面の状況に神経を使うため、視線が上下に移動することになり、視点の動きは上下に長く、左右に狭くなるといわれます。左右に十分注意し、いち早く危険回避措置がとれるような運転に心がけること。他の車両の死角に入らないこと等、防衛運転を徹底したいものです。

これから、寒さが更に厳しくなりませんが、寒冷期での交通事故防止に気をつけたいものです。まさに、「安全は心と時間のゆとりから」です。(TN記)